令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人京都市芸術文化協会
施設名	京都芸術センター
内定額	5,767　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	向井山朋子『WE ARE THE HOUSE』	5月30日～6月8日,	館内各所他
公-02	篠田千明 『まよかげ／Mayokage』	11月21日～24日	フリースペース他
公-03	西田悠哉／劇団不労社『タイムズ』	8月22日～24日	フリースペース
人-01	トラディショナル・シアター・トレーニング	7月10日～8月8日	館内各所、大江能楽堂
人-02	（取り下げ事業）		
普-01	継ぐこと・伝えること66 義太夫節	6月29日	大広間
普-02	継ぐこと・伝えること67 違いを愉しむ東西の落語	2月22日	大広間
普-03	「拝啓 京都芸術センターにまだ来たことがない貴方へ　ティーンエイジャー編」	8月16日～12月20日	館内各所他

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	40	37	33
	公演事業	20	16	8
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	3
	人材養成事業	1	5	6
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	1
	普及啓発事業	5	3	6
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	3
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　展覧会、茶会、レジデンス、周年事業	14	13	13

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0	0
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		15,632	14,850	17,059
		公演事業	2,039	1,900	3,884
		人材養成事業	377	500	1,410
		普及啓発事業	1,381	450	398
		共生社会事業			
		その他　内容：　展覧会、茶会、レジデンス	11,835	12,000	11,367
	貸館事業入場者・参加者数		0	0	0
	その他　内容：　パートナーシップ、周年事業		7,222	7,400	3,128
	計		22,854	22,250	20,187
開館日数			345	347	346
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			345	347	346
施設の利用日数			345	347	346
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）			100.0%	100.0%	100.0%

備考	
	開館日はすべて制作室の使用があるため、開館日＝利用可能日数＝利用日数となる。 貸館事業は行っていない。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	14	24	2,039	3	4	3	0	0	1	3
	共催・提携公演（※2）	9	21	1,586	1	1	1	3	0	1	2
	貸館公演	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	23	45	3,625							
令和6年度	主催公演（※1）	15	25	2,300	3	1	3	1	1	3	3
	共催・提携公演（※2）	6	19	1,500	4	2	0	0	0	0	0
	貸館公演	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	21	44	3,800							
令和7年度	主催公演（※1）	12	41	4,104	4	1	1	2	0	2	2
	共催・提携公演（※2）	8	32	1,628	3	2	1	2	0	0	0
	貸館公演	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	20	73	5,732							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	向井山朋子『WE ARE THE HOUSE』	目標値	200	100.0%	観客の満足度	アンケート5段階で上位2段階と回答した人が70%以上	30%（※アンケート回収率が振るわなかったため、十分な分析には至っていない。）
		実績値	161	81.0%	関係者のコンセプトへの共感度	関係者10名以上へのヒアリングを行い、8割以上が『ジェンダーに関する社会的課題の理解と解決』に効果的だったを示すことを目標とする	10人中7名
公-02	篠田千明 『まよかげ／Mayokage』	目標値	240		観客の満足度	アンケート5段階で上位2段階と回答した人が70%以上	71%
		実績値	120	50.0%	こども連れの来場者割合	全体の30%以上	10%
公-03	西田悠哉／劇団不労社『タイムズ』	目標値	640		観客の満足度	アンケート5段階で上位2段階と回答した人が70%以上	81%
		実績値	551	86.0%	専門家による批評掲載数	掲載3本以上でおおむね好評価	SNSでのコメントは多数で概ね好評であるが劇評がなくブログでの感想が3本。
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人京都市芸術文化協会
施設名	京都芸術センター
内定額	5,767　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	向井山朋子『WE ARE THE HOUSE』	5 月に実施したサロンプログラムでは、市内各所との連携を通じて、ジェンダーや身体をテーマとした多様な企画を展開し、新たなネットワークの構築につながった点は成果であった。 また、クロスジャンルかつ実験的な創作に関わることができ、欧州での再演も含め、今後の展開が期待される。
公-02	篠田千明　『まよかげ／Mayokage』	創造の出発点が京都芸術センターにあった作品であるものの、その後のブラッシュアップを経て再演を重ねている段階での上演となったため、内容面への関与は限定的であった。 また、子どもを対象とした作品でありながら上演時間がやや長く、広報等の面でも工夫の余地があったように感じられた。
公-03	西田悠哉／劇団不労社『タイムズ』	ある種の情熱をもって推進した企画であり、これまでにない新たな作品の発表につながった点は成果であったと考える。 一方で、出演者や関係者が多岐にわたる中、担当者の離職等も重なり、マネジメント面においては十分に機能したとは言い難い状況であった。また、広報や事務手続きの遅れについては、改善すべき課題として関係者間で共有している。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業	１：観客の満足度	１：アンケート５段階で上位２段階と回答した人が 70%以上	１：61%
	２：作品のその後の展開	２：公演後、その他の地域での公演が確定した数（１件以上）および打診があった数（２件以上）	２：サロンを経て創作された公演は、オランダでの上演が１件確定。ベルギーでの上演も １ 件打診があった。
人材養成事業	１：専門人材育成事業への応募者数	１：トラディショナル・シアター・トレーニングでの定員充足度	１：106%（定員 16 名のところ 17 名を受け入れた）
	２：育成対象者の研修後の反応	２：アンケートでの５段階で上位２段階と回答した人が 70%以上	２：88%
普及啓発事業	１：新規来館者数	１：アンケート回答者 20%以上が「はじめての来館」と回答	１：参加者の 80%がはじめての来館
	２：参加者の反応	２：アンケート回答者 50%以上が「また来たい」と回答	２：アンケートとして集計しなかったが、振り返りシートの記述からは全員が再訪意向を示している。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	観客満足度については、「上位 2 段階 70%以上」の目標に対し実績は 61%と未達であり、アンケート回収や伝え方の工夫など改善の余地がある。 一方、作品の展開については、サロンプログラムを経て創作された向井山朋子のパフォーマンス「WE ARE　THE　HOUSE」はオランダでの上演が 1 件確定し、ベルギーでも打診があるなど、国際的な広がりが生まれた点は成果といえる。 総じて、満足度には課題が残るものの、作品の発展性という観点では一定の成果が認められる。今後は観客体験の向上と評価手法の改善に取り組む必要がある。

人材養成事業	
自己評価	応募者数については、定員 16 名に対し 17 名を受け入れ、充足度 106%と目標を上回る結果となり、本事業への関心の高さがうかがえる。 また、研修後の反応についても、「上位 2 段階 70%以上」の目標に対し 88%と高い評価を得ており、内容の有効性が確認できた。 以上より、定量・定性の両面で目標を達成しており、人材養成事業として一定の成果を上げたと評価できる。今後は、この成果を継続的な育成や実践機会へと接続していくことが課題である。

普及啓発事業	
自己評価	新規来館者については、「はじめての来館者 20%以上」の目標に対し、実績は 80%と大きく上回り、新たな層へのリーチという点で顕著な成果があった。 一方、参加者の反応については、「また来たい」50%以上という目標に対し、アンケートとしての定量的な集計は行っていないものの、振り返りシートの記述からは全員が再訪意向を示していると読み取れる。 以上より、新規層の獲得および参加者満足の両面で成果が見られる一方、今後は評価手法の精度向上と定量的な把握が課題である。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
１：海外の劇場・アートセンター等との連携実績	１：5 件以上（アーティスト・イン・レジデンス含む）	１：連携先　6 件
２:海外の文化関係者の公式視察件数	２：5 件以上	２：6 件

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	海外の劇場・アートセンター等との連携については、「5 件以上」の目標に対し、ノルウェー、ドイツ、オーストラリア、インドネシア、インド等の６機関との連携を実現し、目標を上回る成果を得た。地域的にも多様なネットワークを構築できている点は評価できる。 また、海外の文化関係者の公式視察についても、「5 件以上」の目標に対し６件を受け入れ、目標を達成した。大学や国際交流機関、美術館関係者など多様な来訪者との関係構築につながっている。 以上より、両指標ともに目標を達成または上回っており、国際的なネットワーク形成およびプレゼンス向上の観点から一定の成果があったと評価できる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
1：ボランティアスタッフの登録者数 地域コミュニティとの連携事業	1：前年比＋５％以上 2：3 件以上実施	1：８％増加 2：6 件

（※4）・（※5）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	ボランティアスタッフの登録者数については、「前年比＋5%以上」の目標に対し、実績は 8%増加と目標を上回る結果となり、参加基盤の拡充が図られた。 また、地域コミュニティとの連携事業についても、「3 件以上実施」の目標に対し、開設 25 周年イベント「25」や明倫文化祭、明倫運動会など多数の事業を実施し、目標を大きく上回った。 両指標ともに目標を達成または上回っており、地域との関係構築および参加の広がりという点で成果が認められる。今後は、こうした関係性を継続的な活動へとつなげていくことが重要である。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
1：主催事業託児サービス利用者数	1：年間 10 人以上。	1：10 名
2：アウトリーチ事業の実施数	2：年間 50 カ所以上。	2：「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」では、市内の小中学校等 110 校で訪問授業を行った。
3：新たな視点の獲得	3：アンケートで、20%以上が、5 段階で上位 2 段階と回答。	3：「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」を受けた小中学生 1429 名の 88%が授業に興味を持った、また受けたいと回答。

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	主催事業における託児サービス利用者数については、「年間 10 人以上」の目標に対し 10 名と達成した。また、子ども向け事業が多く、託児ではなく親子で一緒に鑑賞・参加する形式が多かった点も特徴である。 アウトリーチ事業は、「年間 50 カ所以上」の目標に対し、市内小中学校等 110 校で実施し、大きく上回る成果となった。さらに新たな視点の獲得についても、「上位 2 段階 20%以上」に対し 88%が肯定的に回答しており、高い評価が得られている。 以上より、すべての指標で目標を達成または上回っており、事業の到達度および教育的効果の両面で成果が認められる。今後は継続的な関係構築や学びの発展につなげていくことが重要である。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
「WE ARE THE HOUSE」では、ジェンダーや身体をテーマに、芸術センターの枠を越え、地域と連携したサロンプログラムを展開することができた。 そのサロンプログラムの出発点となった「BIG HOUSE PARTY」では、ドラァグクイーンやポールダンサー等によるパフォーマンスを通じて、自分を肯定することの強さと美しさを体感できる場を創出できたことが、特に印象に残っている。来場者や関係者からは、公共施設においてこれほどの表現が実現されたことに対し、驚きと称賛の声が寄せられた。自己規制や受容されやすい内容にとどまらず、今の時代に必要なテーマについて、恐れず、アーティストとともに、社会に届けていくことの重要性を改めて認識する契機となった。 その後のサロンプログラムでは、アーティストや学生とともにお寺でこども食堂を実施したほか、中絶に関するレクチャーやクイア映画の上映、理想の性器を考えるワークショップなど、多様な形態で展開した。いずれも想定を上回る参加があり、参加者の関心の高さとともに、社会的なテーマに対して芸術が関与する場の可能性を実感する機会となった。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…R７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	他の助成金は獲得できている事業もあるが、寄付金や協賛金獲得の活動はできていない。	公演の内容が多ジャンルにわたり会員制度の動機としては難しい。館全体のファンの増加が必要。
目標(値)（※２）	協賛会会員増	SNS のフォロワー増
実績(値)	減少	Instagram、X とも増加
団体の自己評価	多様な財源の確保については、一部で助成金は獲得できたが、寄付金・協賛金の獲得には十分に取り組めていない。また、協賛会会員数も減少しており、目標未達となった。今後は、寄付・協賛の獲得に向けた戦略や関係構築の強化が必要である。	多ジャンルの公演構成により、会員制度の動機づけには課題がある一方、SNS フォロワーは増加しており発信力は向上している。 今後は、館全体のファン拡大と会員制度への接続強化が必要である。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※１）	申請事業ではないが、ロームシアター京都と創造支援プログラム“KIPPU”を実施している。	財団に京都市から 2 名派遣されている。指定管理期間中の管理料は確保されている。
目標(値)（※２）	現状維持	現状維持
実績(値)	現状維持	現状維持
団体の自己評価	他館連携については、ロームシアター京都との創造支援プログラム「KIPPU」を継続して実施しており、目標である現状維持を達成している。 今後も既存の連携を基盤に、効果的な事業運営を継続していくことが重要である。	設置者との意思疎通は適切に図られており、京都市からの人材派遣および指定管理料の確保により、安定した運営体制が維持されている。 今後も現状を維持しつつ、継続的な連携を図る必要がある。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	(オ) 芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	(カ) 長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状(※1)	館長、副館長を配置	専務理事を配置
目標(値)(※2)	現状維持	現状維持
実績(値)	現状維持	現状維持
団体の自己評価	館長および副館長を配置し、芸術面の統括体制は維持されており、目標である現状維持を達成している。	専務理事を配置し、長期的な視点に立った経営体制は維持されており、目標である現状維持を達成している。 今後も安定した経営基盤のもと、継続的な運営を図る必要がある。

評価の観点	(キ) 専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	(ク) 職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状(※1)	専門人材(アートコーディネーター、プログラムディレクター等)を配置し、育成している。	分担されているが、一部重なり合う部分もある。
目標(値)(※2)	現状維持	現状維持
実績(値)	広報専門のプログラムディレクター、シニアアートコーディネーターを新たに採用。ただしプログラムディレクター2 名が年度途中で退職。	退職者が出たことにより管理職に過度な負担があった。
団体の自己評価	専門人材の配置・育成については、広報専門のプログラムディレクターやシニアアートコーディネーターを新たに採用し、体制の強化を図った。一方で、プログラムディレクター2 名が年度途中で退職しており、体制の安定性には課題が残る。	職位・職能に基づく役割分担は概ね整理されているが、一部重複や欠如する領域も見られる。加えて、退職者の発生により管理職への負担が増大し、体制面での課題が顕在化した。今後は、役割分担の明確化と体制の補強により、安定的な運営を図る必要がある。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	指定管理業務を主とする限り、有期雇用の人材を採用せざるを得ず、その中で年齢バランスをとることは困難。	事務局は 30%以上、登用に努めている。
目標(値)（※2）	現状維持	50%
実績(値)	退職者が出たことにとり年度途中で採用を行い、ある程度バランスの取れた体制に近づいた。	途中退職と採用を行ったため、現状は 60%
団体の自己評価	有期雇用が中心となる運営体制の中で年齢バランスの確保には制約があるが、退職者の発生を受けて年度途中に採用を行い、一定程度バランスの取れた体制に近づいた。 引き続き制約を踏まえつつ、適切な人材配置に努めていく必要がある。	女性管理職比率については、目標である 30%以上に対し、事務局では 50%、年度途中の退職・採用を経て現状は 60%となっており、目標を上回っている。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	推進している。	規定を策定し行っている。
目標(値)（※2）	現状維持	全職員を対象にした研修実施 1 回
実績(値)	育休、時短勤務 3 名	全職員を対象にした研修実施 1 回
団体の自己評価	仕事と育児・介護等の両立支援については制度の整備･運用を継続しており、育休や時短勤務の利用者が 3 名いるなど、実際の活用も進んでいる。 目標である現状維持を達成しており、今後も継続的な制度運用と利用促進に努めていく必要がある。	情報セキュリティをはじめとする各種コンプライアンスについては、規定を策定し、全職員を対象とした研修を 1 回実施するなど、適切に運用している。 目標である現状維持を達成しており、今後も継続的な順守と意識向上に努めていく必要がある。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	策定・周知し、研修を行っている。	交わしている。
目標(値)（※2）	全職員を対象にした研修実施１回	現状維持
実績(値)	全職員を対象にした研修実施１回	契約は交わしているが手続きの遅れがみられる。
団体の自己評価	ハラスメント防止については、指針の策定・周知および研修の実施を行っており、全職員を対象とした研修を１回実施し、目標を達成した。	アーティストやスタッフとの契約は適切に締結しており、基本的な体制は維持されている。一方で、手続きに遅れが生じる場面も見られ、運用面に課題がある。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
各事業においては、アウトリーチや国際連携、人材養成などの分野で目標を達成または上回る成果が見られ、特に新規層へのリーチや海外展開、教育的効果の面で一定の成果を上げた。一方で、観客満足度や、寄付・協賛の獲得など、運営基盤に関わる課題も明らかとなった。 また、組織運営においては、人材の確保・定着や役割分担、契約手続きの運用などに改善の余地がある。特に夏以降の繁忙期には人員不足が重なり、体制面で非常に厳しい状況が生じたが、その後の採用等により、現状は一定程度改善している。 今後は、これまでの成果を活かしつつ、評価手法の精度向上や財源の多様化、人材体制の安定化に取り組み、持続可能な運営と事業の質の向上を図っていく必要がある。

備考